

総合患者支援センターニュース

〒700-8558
岡山市鹿田町2丁目5番1号
岡山大学病院
総合患者支援センター
☎086-223-7151 (代表)
☎086-235-7744 (直通)

Integrated Support Center for Patients and Self-learning
Okayama University Hospital



センターの活動に関しては
ホームページ (<http://www.cc.okayama-u.ac.jp/>)

がん診療と地域医療連携

副センター長 岡田 宏基

総合患者支援センターは平成15年4月の開設以来、患者さまが大学病院で診療を受けられるに際しての、より一層のサービス向上を目指して活動して参りました。主としてソーシャルワーカーや看護師が、様々な社会福祉制度や、日常の診療に関する悩み事などのご相談に応じて来ましたが、本年4月より、前回のセンターニュースでも病院長が書かれていましたように、地域医療連携部門を統合して、地域の先生方と大学病院との連携にさらに力を注いで行くことになりました。

その連携の一環として、大学病院で入院治療を受けられた患者さまが退院や転院をされる際には、必要に応じてその後の在宅療養の準備や、転院先との連絡調整を行っています(退院支援・退院調整)。がん診療においては、初回治療以降、長期にわたって治療を継続して行く場合が少なくないため、このような対応が特に重要となります。

かつては、初期治療から患者さまが自宅で不自由なく暮らせるようになるまでを大学病院でお世話できていましたが、医療の高度化・専門分化と共に、特定機能病院である大学病院での診療をできるだけ多くの方々に提供する必要が生じて参りました。このため、大学病院での診療が不可欠の期間は大学病院で入院治療を行い、その後は患者さまの居住地に近い病院等で療養を継続していただく、という診療分担を少しずつ進めてきています。たとえば、抗がん剤を使う治療では、薬剤使用量の確認や、副作用の出現の仕方とその対応方法を見極めることを大学病院の専門医が行い、その後の継続治療を、地域の医療機関で、大学病院の専門医との連絡を密に取りながら行ってゆきます。一例として、従来であれば4ヶ月の入院が1ヶ月に短縮されると、その後の3ヶ月間で同様の患者さまを、大学病院にあと3人受け入れることができます。特に遠方から治療を受けにおいて頂いている場合は、早い段階で地元の医療機関にかかることで、退院後の急なトラブルの際もまず地域の医療機関にかかることができ、安心して療養を続けることができます。

目下、腫瘍センターとも協力して、このような体制の整備を進めているところですので、がん診療における地域医療連携について、ご理解とご協力をお願い申し上げます。



がん相談支援センターのご紹介

医療ソーシャルワーカー 石橋 京子

※

総合患者支援センターでは、昨年8月に当院ががん診療連携拠点病院に指定されたことにもない、患者さんやご家族あるいは地域の方々からの、がんに関する相談をお受けするがん相談支援センターを設置しています。

がんに関するさまざまな悩みをお聞きしたり、療養生活を送る上で必要な情報を提供させていただいたりしています。例えば、「病気がわかって不安でいっぱいです」「抗がん剤の治療費が高いと聞いて心配しています」「在宅療養で利用できるサービスはありませんか」「緩和ケア病棟はどこにあるのでしょうか」というようなご相談に、ソーシャルワーカーや看護師がおこたえしています。

ご自分のことを打ち明けることには抵抗があるかもしれませんが、ご相談いただいた内容が外に漏れるようなことはありませんので、一人で悩まず、どうぞ安心してご相談ください。

相談時間は平日8:30~17:00、電話でのご相談もお受けしています。

*がん診療連携拠点病院とは

全国どこにお住まいでも質の高いがん医療が受けられるように、厚生労働大臣が指定した病院です。がんの手術治療、抗癌剤治療、放射線治療が一定基準を満たし、複数の診療科が協力して診療を行えること、セカンドオピニオン（病状や治療法について、主治医以外の意見を聞き、参考にすること）外来があること、緩和医療が提供できること、地域の病院や診療所と連携体制が整っていることなどが条件です。



岡山県内がん相談支援センターのご案内パンフレット

腫瘍センター外来開設のご案内

腫瘍センター長 田端 雅弘

一昨年開設された岡山大学病院腫瘍センターでは、この度ふたつのがん専門外来を開設する運びとなりました。ひとつは「緩和ケアコンサルテーション外来」、もうひとつは「がん化学療法外来」です。前者は緩和ケアに関する医療従事者からのコンサルトを目的としたもので、すでに外来受付（毎週金曜日午前中、完全予約制）を開始しております。外来でのコンサルトのみで入院治療には対応しておりませんが症状緩和に苦慮される場合には主治医よりご相談頂けると幸いです。症状に応じて当院の緩和ケアチーム（ペインセンター医師、精神腫瘍医、腫瘍内科医、腫瘍外科医、がん専門薬剤師、がん専門看護師など）が対応させていただきます。「がん化学療法外来」では、がんの種類を問わず院内・外からの外来化学療法の依頼を承ります。こちらは平成20年12月外来受付開始予定で、毎週月・火・木・金の午前中に日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医が外来化学療法を担当します。主治医の依頼で決められた外来化学療法を担当するもので、依頼元の医師に代わって主治医となるものではありません。当院での外来化学療法のご希望がございましたら主治医から紹介をお願いします。また、化学療法外来は院内の緩和ケアチームへの紹介窓口を兼ねておりますので院内で緩和ケアチームへの依頼がございましたら主治医より院内紹介状にて紹介をお願いします。

がん患者さんへの薬剤師の関わりについて

薬剤部 藤原 聡子

がん薬物療法における薬剤師の仕事は、処方内容の確認と薬の取り揃え、患者様への薬の説明、医療スタッフに対する医薬品情報提供、抗がん剤の薬物血中濃度測定、外来化学療法および抗がん剤の無菌的混合調製など多岐にわたります。医師、看護師などの他の医療スタッフと連携をとりながら患者様へ安全で適正ながん薬物療法を提供するよう努めております。薬剤師は他の医療スタッフと同様、患者様に対し適切に薬の情報を提供することで患者様を支援していく必要があります。具体的には、患者様がどのようなインフォームドコンセントに基づいて治療に至ったかを把握し、薬物アレルギー歴、副作用歴、投与禁忌薬の有無、併用薬および薬物相互作用の有無を確認します。さらに投与される抗がん剤の種類、治療スケジュール、起こりうる副作用と時期およびその対処法について説明し、患者様ご自身が十分理解できるように援助しています。そして副作用のモニタリングを継続的に行い、必要に応じて医師への支持療法の提案や患者様へのセルフケアの指導を行っています。患者様は説明を真剣に聞いてくださり、薬（特に副作用）に関する情報を求めていることがわかります。医療スタッフの一員として服薬指導を行うことで患者様が安心して治療に臨めるよう支援していきたいと思っております。



抗がん剤の無菌的混合調整の様子



抗がん剤の治療を受けられる患者様へ
(パンフレット)
外来化学療法を受けられる患者様へ
(自己管理のための日記帳)

がんにおける心理相談

臨床心理士 野口 敬蔵

当院では臨床心理士が、がん患者様への心理相談を行っています。外来化学療法室では、初回患者様に対して紹介を兼ねて、その時点での状態を把握し、他のスタッフと協働しながら心のケア・サポートにあたり、要望があればその都度時間場所など調整して対応しています。その他にも、病棟、外来問わず要望があれば対応しています。治療をはじめて間もない頃や治療が大変な時は心の余裕も持てないものです。今までには主に、現在・今後に関しての不安や治療・やまいから生じてきた対人関係などの相談がありました。

※ 相談依頼は、腫瘍センター、総合患者支援センター、主治医、看護師を通して行っております。

※ 即座の対応は困難な場合もあり、日時を設定しての対応もあります。

頭頸部がんチーム 紹介

歯科衛生士 三浦 留美

岡山大学病院では、2007年9月から耳鼻咽喉科、形成外科、歯科を中心とする頭頸部がんチーム医療が開始され、歯科衛生士は口腔ケアを担当しています。

頭頸部がんの患者様の治療は、手術・化学療法・放射線療法を主とし、化学療法や放射線療法では、口腔粘膜炎などの口腔合併症が高率に発症します。そのため、治療開始前・治療中・手術後に口腔ケアを行い、口腔細菌量をできるだけ抑え、口腔合併症を予防・軽減し、QOLの向上を図るようにしています。

また、毎週水曜日の17時からカンファレンスを行い、医師をはじめ多職種で意見交換し、多方面から患者様をサポートしています。





ボランティア研修会

当院の病院ボランティアには、外来案内、患者図書室などの活動と、専門の研修を受けた医療ボランティアの活動があります。この度開催した研修は次のとおりです。

『介護実技研修』

講師：保健学研究科 大井伸子先生
渡邊久美先生
佐藤美恵先生
総合患者支援センター 広森由紀看護師

介護実技研修に参加して（感想）

外来案内ボランティア 延藤 貴志子

5月から、外来案内の活動をしています。1回目の研修会ではボランティアの心得！活動の種類はいろいろ？自己満足はまずい？相手の心を知る？等について学びました。この度の研修では車椅子・杖・目の不自由な人の介助等、2人1組で体験しながらの研修でした。思いがけずその数日後、私は右膝の打ち身（骨折なし）で歩けなくなり、松葉杖・1本杖を使いこなすことの難しさを実感した1週間でした！落ち着いて対応できて感謝です！特に1本杖は、両足の弱った人と私の場合の使い方とは違い、知恵と工夫が必要と感じて実践中です。これからも患者様と心休まる時間が共有できればと願いつつ・・・



『ピアサポーターとは

～患者力を活かした医療サービス～

講師：福岡県立大学看護学部講師 小野美穂先生

ピアサポーターとは、すでに社会復帰している人が一定の研修を受け、これから治療を始める方、治療中の患者様の社会復帰をサポートするボランティアのことです。

現在当院では、ストーマ（人工肛門・人工膀胱）造設の術前・術後の患者様を訪問し患者様をサポートするピアサポーター制度を実施しています。

この度ピアサポーターについて理解を深めるため、乳がん治療再建センターと共催で主に医療者を対象に研修会を開催しました。

乳がんの患者様からの要望もあり、来年2～3月にかけてピアサポーター養成研修を行ない、ストーマ造設患者様に加えて乳がんの患者様にもピアサポーターを利用していただけるよう準備を進めていく予定です。

国立大学医療連携・退院支援部門協議会 に出席しました

7月はじめに、今年は東京大学の安田講堂で開催されました。今年が第6回で「医療連携の課題と展望」というテーマで2日間にわたり、講演・シンポジウム・ポスターディスカッションが行われました。病院の機能分化が進み、大学病院と地域とのつながりについて現状の問題・意見交換などあり、各大学病院とも同じような問題を抱えており活発な意見交換となりました。

岡山大学からは、今後導入を予定しているインターネットによる紹介状受付システムや、退院調整の現状報告、および、地域医療機関との連携状況について報告を行いました。

今回の経験をもとに、よりよい地域連携に取り組んでいきたいと思っています。

夜尿症外来 開設のご案内

夜尿症について

昼間の尿失禁（おもらし）を伴わない夜間睡眠中のみの夜尿症患者さんは、6歳～15歳児で日本全国におよそ50万人いると推計されています。

治療について

従来の薬物治療から、近年はアラーム治療の効果が確認されつつあります。現在最も有効性の高い治療法ですが、まだ検討の余地があります。このアラーム療法の効果を検証しながら、より効果的な治療法の開発を目指しています。

診療時間：毎週金曜日

午前8：30～12：00

お問い合わせ

岡山大学泌尿器科外来（直通）

Tel 086-235-7945

